

三條別院のご案内

真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

Email : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

三條別院に想う

三條別院は三百年以上の歴史を持ち、佐渡、村上から柏崎まで、約五百の真宗寺院と門徒を結ぶ聞法道場だ。御坊市や三條マルシェとのコラボ等、地域にも広く親しまれている。

一六八五年、信越地方を舞台に、多くの真宗寺院を巻き込んで論争が起こった。争点は「小児が浄土往生できるか否か」だったという。当時越後には、「子供に御文を抱かせ、大人が代わりに」「この子の後生助けたまえ」と頼めば、生後間もない小児でも浄土往生できるといふ「御名（おな）がけ」の儀式があった。新井の願生寺はこれを、自覚的帰依がないと批判して、十五歳以下の小児往生を否定した。これが大問題となった。自覚が仏教の正論であっても、小児を除外したとなれば、十方衆生を救うと誓った如来の本願と矛盾するからだ。

結局本山は願生寺を異安心と裁き、寺院はお取り潰し。一方で「御名がけ」の作法も否定した。以後、願生寺跡や三條等には宗義安心を取り締まる掛所が置かれ、本山の統治が進んだ。これが三條別院の始まりである。

ところで現在大谷派には、帰敬式という儀式がある。受式年齢に制限はなく、生後間もない小児にも法名が与えられる。その一方で宗憲は

「帰敬式は、本派に帰依の誠を表す儀式」と定める。これを受式者に求めれば、小児や、通夜で行う死者の帰敬式は不可能だ。

だが無自覚者こそ、如来が救済を誓われた相手だ。ご本山は帰敬式の受式年齢制限を廃して、如来より賜る凡夫往生という浄土真宗の原点を表してくれた。だから、自覚なき者には誰が帰依の誠を表し、浄土往生を約束しているか、明確にしていかねばならぬ。誤った作法と否定され、忘れ去られた「御名がけ」は、今も私たちに静かに問いかけている。

別院の御本尊を仰げば、阿弥陀如来は無自覚なまま得度した私に向って、「南無阿弥陀仏」と呼びかけていらつしやる。自覚に先立って、すでに如来は凡夫に帰依敬礼していらつしやるのだ。何と有難い姿ではないか。

第十五組光善寺住職 佐々木壽雄氏

○次回の「三條別院に想う」は、

北島栄誠氏（第十一組長福寺）より

執筆いただきます。

定例法話会で親鸞聖人御木像調査の報告

三條別院で毎月十三日に開催されている定例法話会。五月十三日は村山教二氏（第十一組願興寺衆徒）より、「親鸞聖人御木像調査について」という講題で、親鸞聖人の御木像についてお話しいただきました。村山氏は、自身の四十年以上にわたる真宗寺院調査研究に基づき、すべて形が異なる三十九体の親鸞聖人御木像について、それぞれ丁寧な特徴と、御木像から推測される時代背景や込められた思いをお話されました。また、御木像調査の話の前に、村山氏が執筆された『越後佐渡の親鸞聖人と蓮如上人』第一章冒頭の言葉から、「念仏往生 信心正因」（いわゆる称名大行論）の教えを紹介され、お念仏の「信心正因 称名報謝」（いわゆる名号大行論）という信心がはつきりしなければ称名念仏ではないとする立場とは異なり、まず私たちになければならぬのが念仏であると明確に述べられた。勤行以外でお念仏を申さなくなってきたのではないだろうかとの問いを述べられました。

鎌倉時代から続く貴人信仰の影響もあり、鎌倉教各宗では、ご本尊ではなく祖師を伽藍の中心に据える傾向があります。浄土真宗においても、親鸞聖人の御廟所から本願寺になったという歴史から、真宗本廟においては御影堂を中心としています。本来は御本尊が中心であるべきですが、人としての親鸞聖人を慕う気持ちこそにはあり、同様にこのような数多くの御木

像の製作につながったのではないかとという指摘もありました。

この定例法話会には、新潟日報社の記者も来られ、五月十八日の新潟日報紙にて掲載されました。六月も引き続き村山氏より「法話いただきませす。六月も同じく『越後佐渡の親鸞聖人と蓮如上人』をテキストとし、後半の蓮如上人に関する法玉物についてお話しただく予定です。ぜひ有縁の方々をお誘いの上、三条別院にお越しください。

駅オープンを記念し、4月29日からステンレス製の道の駅きつぷ(13000円)も好調を維持しており、目標とする16年度の売上高3億8000万円(前年度比15%増)を達成できるべしと意気込んでいる。

高橋部長は「これまでは2011年の親鸞聖人750回御遠忌に合わせ、08年から15年にかけて管内寺院を中心に親鸞の木像の調査を行った。講演会は三条別院の定例法話会の一環として行われ、約20人が参加した。調査を担当した村山さんは「調査した39点は表情、姿勢、形が全て異なる」と強調。安齋されているのは寺院だけでなく、個人宅もあつたと述べ、「丁寧にまつられていたところが目立つた」とした。また「寺院の中には、どんな像があるかなどを任職が把握していないケースもある」と課題を指摘した。

「一つとして同じ像なく」



三条で講演会 親鸞の木像を説明

浄土真宗の宗祖親鸞の真像の講演会が13日、三条市本町2の真宗大谷派三条別院

親鸞の木像について講演する村山教二さん(13日、三条市三条別院)。

相・裏館の統合保育所定員180人規模に三条市概要発表

三条市は16日、旭保育所と裏館保育所を統合して整備する新たな市立保育所の概要を発表した。裏館小学校に隣接する東裏館3に、定員180人規模で新設するとした。

整備費は約8億3千万円を見込む。7月中旬までに実施設計を完了し、2018年4月の開所を目指す。市議会総務文教常任委員協議会で説明した市は「両保育所とも、建設から約40年が経過して、目に見える形で老朽化が進んでおり、統合した形での保育所が必要」と強調した。



二人の講師により、三カ月にわたりお話をいただきます。テキスト(全寺院に送付済)は、教務所で1000円で販売しております。詳しくは下の記事をご覧ください！



宗祖 御命日のつどい

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日(二十七日)はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

- ◇日時 六月二十八日(火) 午前十時より
- ◇会場 三条別院 本堂
- ◇お勤め(御命日 日中法要)
- 文類偈 行四句目下
- 念仏讃 淘五
- 和讃 回口 次第六首
- 回向 願以此功德

◎今月の法話講師

朝倉 奏氏(第二十組金寶寺)

— 『歎異抄』に聞く【第六章】 —

◆一月の御命日のつどいより、『歎異抄』に聞くという内容で、第一章から順に、それをテーマにした法話聞いております。



◇※新年度の講師一覧は次号でお知らせいたします

定 例 法 話 会

毎月十三日の前門首の命日(両度の命日)に行っている定例法話会を左記の通り開催いたします。

◇日 時 毎月十三日 ※八月、一月は除く
午後一時三十分より(二時間程度)

◇場 所 三条別院 旧御堂

◇講 師

五月・六月 村山教二氏(第十一組願興寺)
七月 松岡誠一氏(仏像文化財工房)

「親鸞聖人御木像調査について」

◆二〇〇八年から二〇一五年にかけて行われた宗祖親鸞聖人御木像調査について、担当委員の村山教二氏と、新潟日報の連載記事でもおなじみの松岡誠一氏にお話しいただきます。

そ の 他 の 講 座 案 内

○別院声明教室(全五回・途中参加可能)

〔月一回、午後六時〜八時〕

二月十八日(木)〔済〕、三月十七日(木)〔済〕

四月二十一日(木)〔済〕、五月十九日(木)〔済〕、

六月十六日(木)

講習内容 真宗大谷派動行集(赤本)

講 師 長田 暢氏(第十六組 善興寺)

参加費 五〇〇円/回

○別院書道教室

〔月一回第一、第四水曜日、午後六時三十分〜八時〕

講師 木原光威氏(新潟県書道協会理事)

月謝 二五〇〇円(テキスト代含む)

随 時 募 集 中

○三条別院巡回

三条別院の御影をお迎えして、聞法会を開催しませんか？

○別院奉仕研修

日程及び内容については「相談ください」。

◎冥加金 日帰り一五〇〇円、一泊二日二五〇〇円

◎食事代(昼・夕食は業者発注)

・朝食代 五〇〇円、昼食代 一〇〇〇円程度

・夕食代 一三〇〇円程度

○庭講(清掃講)

二〇一五年九月に結成された、生まれたてホヤホヤのお講です。現在、講員は全員で十一名。さらに多くのみなさんと一緒に活動をしたいと現在講員大募集中です！

ぜひ、御一緒に清掃奉仕と十三日の定例法話の聴聞をしませんか！講員一同、心からお待ちしております！

○三条別院有志の会

もともと三条別院のお朝事にお参りしている(門徒からはじまった)清掃奉仕・法話・座談を中心とした有志の会です。月一回の例会、別院行事に併せた奉仕活動や季節ごとの懇親会を行っております。参加希望の方は、ぜひ別院までご連絡ください。

同朋会館へ宿泊される方へのお願い

同朋会館に宿泊される方は、宿泊当日に同朋会館一階の事務所に「ごいまます」宿泊者帳に記載してください。その後、シートクリーニング代五〇〇円とシートを交換させていただきます。

なお、宿泊される方は、翌朝七時より本堂にて晨朝が勤まりますので、お参りいただきますようお願い致します。

◆◆編集後記◆◆

さて、庭講の「小松教区お講視察・参拝」が、来たる六月十九日〜二十日に行われることが決定いたしました。庭講は「仏法の聴聞および三条別院の護持整備を目的とした、真宗に有縁の方々」が自主的に参加構成する集まり」として、昨年の九月に結成されました。その当初より講員から、「そもそも、ご門徒が自主的に参加構成するお講とはどういったものなのか？三条教区で開催されているお講から、なんとなくは理解できているが、できれば他教区のお講なども見学させていただいて、お講というものの見識を深めたい。そして三条教区に持ち帰れるものがあれば持ち帰り取り入れたい」とのご意見がありました。幸いにも池守三条別院輪番の先の勤務地ということもあり、全国的にもお講が盛んで有名な小松教区さんとのご縁をいただく事ができ、お講の総代表でいらつしやる小松教区十二日講門徒会長の中田郁夫氏のご厚意で小松教区の皆様との交流の場を持たせて頂けるはこびとなりました。日程といたしましては、六月十九日に小松教区徳橋組さんのお講に参拝後、中田氏よりお話しをしていただき、夜は旅館で中田氏を含むすべてのお講の代表の方々、および長澤小松教務所長との懇親会を持たせていただきます。翌二十日には旅館でおあさじをお勤めした後、金沢別院を参拝して小林金沢別院輪番よりお話しをいただく日程となっております。三条別院からは池守章輪番とわたくし松浦を含む庭講員十名程度で参拝する予定です。ぜひ、この縁をこれからの三条別院・三条教区に有意義なものとしていただくと願っております。(松浦)